

すわみつえ通信

No.353 2025年3月17日

日本共産党鴻巣市議会議員
諒訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL : 596-9440 FAX : 507-4151
携帯 : 080-5039-2785
E-mail : mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



身近な議員として もっと届け
たい声がある 声をかたちに

すわみつえ一般質問にて

すわみつえ市議は3月13日(木)に一般質問を行いました。質問準備での情報提供のご協力に、また質問当日、多くの皆さんに傍聴に駆けつけてくださったことに、心より感謝申し上げます。

=川里地域の「義務教育学校」計画について 「周知方法・内容」と「説明責任」=

●市教育委員会の取り組み状況について、「一方的で乱暴な周知」と言わざるを得ない

3月4日頃に、川里地域の在校生保護者に児童を通じて、未就学児保護者には郵送で、「義務教育学校新設における取り組み状況について(通知)」がA4用紙1枚で届けられました。

文書には、QRコードが4つ並んでいます。QRコードを読み取れば、この間、市教育委員会が実施してきた、懇話会や意見交換会の議事録が読めるようになっています。この1枚の「通知」で、川里地域の市民の皆さんに「広く周知」したことなのか、あまりにも一方的で乱暴なやり方であることを質しました。

意見交換会についての答弁

答弁は「現時点では意見交換会の具体的な内容や日程は決まっていないが、事業の進捗に合わせ情報共有と意見交換を積極的に行う」というものでした。

●鴻巣市自治基本条例に沿った市民への説明責任が求められている

説明責任とは市民の参加と協働によるまちづくりの実現には欠かせないもの

川里地域で進める義務教育学校は、全国的に「小学校高学年児童の指導に課題が出始めている」ことが報告されており、つくば市では義務教育学校そのものをとりやめています。

教育現場からの意見、市民の意見を聞くこと、誰もが参加しやすい意見交換会を何度も実施することを求めました。

今後も取り組みます

市は小中一貫教育を川里地域で「義務教育学校」としてスタートする計画です。義務教育学校は校長先生がひとり、教員は小中両方の教員免許が必要となります。鴻巣市の教育が大きく変えられようとしています。子どもたちの学び、学校を中心とした地域づくりなど、市民が主人公となって決めていくよう、引き続き、取組んでまいります。

=不登校児童への取り組み 「魅力ある楽しい学校づくり」を=

埼玉県教育委員会で出した「児童生徒支援ガイドブック」で「魅力ある学校づくり」が提案されています。当市で活用していくことへの見解を求めました。

【答弁は】

ガイドブックの「魅力ある学校づくり」のための4つの取組「安心して学べる学校」「学級での居場所」「児童生徒との信頼関係」「学ぶ意欲を育む信頼関係」をあらためて各学校と共有し、教職員の多忙感解消の取り組みを進めていきます。ということでした。

《国にしっかり求めていくこと》

日本共産党は「教員残業代ゼロ制度」の廃止、授業に見合った教員定数を求めています。

菜の花や荒川の土手埋め尽くす
【俳句コーナー】

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

3月13日(木) 議会終了後、給食無償化を求める署名458筆を副市長に届けました

学校給食は教育の一環です。学習指導要領特別活動学級活動の内容に「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成、給食の時間を中心としながら健康により食事のとり方など望ましい食習慣の形成を図るとともに、食事を通して人間関係をよりよくすること」とあります。

学校給食は単なる食事場面ではなく、人格形成・食習慣の形成という教育場面です。食材を保護者負担とする学校給食法であっても、教育の一場面と考える学校教育法や食育基本法の立場から、公費負担による学校給食は国民の理解するところです。



福島原発事故を忘れない！核と人類、共存させてはならない 「3・15さよなら原発集会 in 鴻巣2025」開催される



3月15日(土)、鴻巣市市民活動センターにおいて、「3・15 さよなら原発集会 in 鴻巣2025」が平和・民主・革新の時代をひらく鴻巣の会(鴻巣革新懇)の主催で開催されました。すわみつえ議員も参加いたしました。集会には約100名の市民(鴻巣市以外の方も含む)が参加され、大変盛り上りました。

第一部は、映像「福島第一原発の今」「復興進まず続く“犠牲”」を観て原発事故の悲惨さを改めて考えました。第二部は、ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)事務局次長の濱中紀子(はまなか・としこ／行田市在住)さんによる講演でした。濱中さんは、日本被団協のあゆみ、ノーベル平和賞受賞までの想いとオスロの街で大歓迎を受けた感動などを話されました。

被爆者が受けたその苦しみを抱えながら、世界に呼びかけた核兵器廃絶の活動は、人類の生存の戦いです。被団協の活動は、私たちの活動の指標となるものです。原爆(核兵器)と原発は、人類と共存させではないと強く思いました。集会は最後に「集会アピール」を確認して散会となりました。

赤見台地域の「支部福祉委員（健康長寿・市出前講座）」に来賓として参加



来賓あいさつする すわみつえ議員
=3月16日(日)、市民センター。

鴻巣市社会福祉協議会赤見台支部主催の支部福祉委員会が3月16日(日)に鴻巣市立市民センターで開催され、地域の市議会議員として、西尾綾子議員とともに参加しました。

内容は、①健康長寿サポーター養成講座、②「そのまんま料理カード」を使った献立作成の個人ワーク(実践)、③口コモティブシンドローム予防の軽い運動(実践)、でした。

実践を交えた講座で健康づくりのヒント(健診・食事・運動・生活習慣など)を学び、理解度確認テストの後、健康長寿サポーター講習修了証を交付されました。